

## アメダスの格子間隔について

アメダス創設者木村耕三博士略伝（天気43巻8号： 決定について述べておられる。  
1996）の中で、島田守家さんがアメダスの格子間隔の アメダスの格子間隔は、多くの調査、研究に基づい

第1表 観測点密度に関する資料

1) 一般気象

著者	気象要素	対象地域	面積 (km <sup>2</sup> )	長さ (km)	備考
篠原武次	日最高気温 $\sigma = 1^\circ\text{C}$	関東地方	400	20	1964, 観測部
木村耕三	日最低気温の南北細胞幅	上川支庁	400	20	1964, 観測部
牧野高吉	日最高最低気温 $\pm 1.5^\circ\text{C}$ 80%	愛知県	506		1968, 研究時報, 20, No. 3
野呂恒夫	気温分布の特徴	新潟県	503		1961, 天気, 8, No. 4
篠原武次	日最高最低気温 $\sigma = 1^\circ\text{C}$	全国平均	400	20	1958, 研究時報, 10, No. 2
篠原武次	日最高最低気温 $\sigma = 1^\circ\text{C}$	全国山地	100	10	1958, 研究時報, 10, No. 2
正務章 ほか	晩霜時の日最低気温 $\sigma = 1^\circ\text{C}$	長野県	225	15	1957, 研究時報, 9, No. 6
村上律雄	日最低気温 1月 $\pm 1.5^\circ\text{C}$ 80%	関東平野	400	20	1969, 研究時報, 21, No. 4
青木慶一郎 ほか	9時の天気一致率	檜山, 渡島支庁	438		1965, 研究時報, 17, No. 1
白石喜一 ほか	毎日の天気境界の総合	上川支庁	658		1969, 研究時報, 21, No. 6
平均			403	20	

2) 雨・雪

著者	気象要素	対象地域	面積 (km <sup>2</sup> )	備考
今山正春	面積雨量誤差 2%	福岡県	4911/16=307	1959, 天気, 6, No. 4
中央气象台	面積雨量誤差 18%	磯原地区	150	1952, 磯原地区雨量調査, 中央气象台
坂井恭正	面積雨量誤差 10%	全国	244	1968, 電力と気象, 17, No. 2
牧野高吉	地点雨量誤差 20~30%	愛知県	5064/15=338	1968, 研究時報, 20, No. 3
久保勉	一雨雨量の地域性	茨城県	6088/17=358	1968, 東京管区研究会誌, No. 1
久保勉	一雨雨量の地域性	千葉県	5050/15=337	1969, 東京管区研究会誌, No. 2
青木慶一郎	日雨量の地域性	渡島半島	6581/23=286	1965, 研究時報, 17, No. 1
野呂恒夫	月別新積雪の地域性	新潟県	12575/23=547	1968, 研究時報, 20, No. 4
野呂恒夫	月別新積雪度数分布型	新潟県	12575/33=381	1968, 研究時報, 20, No. 4
野呂恒夫	最深新積雪 R. P. の型	新潟県	12575/32=393	1968, 研究時報, 20, No. 11
野呂恒夫	積雪分布の地域性	新潟県	12575/31=406	1969, 研究時報, 21, No. 2
服部秀郎	面積雨量誤差 10%	志摩半島	380/3=127	1958, 研究時報, 10, No. 3
大沢綱一郎 ほか	降雨細胞の直径	諫早地方	10~12 km : 121	1960, 気象集誌, 38, No. 3
土屋正一	降雪量の相関	山形県置賜地方	1000 / 4 ~ 5 = 200~250	1967, 東北地方調査研究会資料
野口和則 ほか	降雨細胞の直径	東北地方	10 km 内外 : 100	1965, 研究時報, 17, No. 2
浅田暢彦 ほか	雷雨細胞の直径	東北地方	10 km 内外 : 100	1966, 研究時報, 18, No. 11
三宅賢	豪雨の集中面積	東北地方	400~500	1969, 青森, 秋田, 岩手地区調査研究会資料
吉田作松 ほか	面積雨量誤差 50%	只見川流域	1258/9=140	1958, 研究時報, 10, No. 1
平均			283 長さ 17 km	

て決められており、気象庁観測部測候課アメダスセンター所長だった筆者が、「運用を開始した地域気象観測システム」(測候時報42巻4-5号:昭和50年4-5月)に報告している。

この刊行物は、20年余りも前であり、気象庁以外の会員には目に触れにくいとも思われるので、関係の部分を引用することにする。

観測所の密度はこれまでの調査(第1表)から、一般気象(気温・天気など)については20 km メッシュ、

降水量については17 km メッシュとする。山岳地帯など一般気象の観測所の配置が不適当な場所では降水量のみとする、などの調整を加える。その結果としてア、一般気象(4要素)の観測所は813で平均メッシュは21.3 km とする

イ、降水量の観測所は1,279で平均メッシュは17 km とする。

投稿を勧めて頂いた「天気」の関口編集委員長に感謝します。(来海徹一)

### 日本気象学会および関連学会行事予定

行事名	開催年月日	主催団体等	場所	備考
海洋理工学会 平成9年度春季大会	1997年 4月18日 ～19日	海洋理工学会	東京水産大学 (東京都港区)	海洋理工学会事務局 (東海大学海洋学部海洋学 科内) 千賀康弘 Tel. 0543-34-0411 (内3424) Fax. 0543-34-9983 e-mail: senga@scc. u-tokai.ac.jp
日本気象学会 1997年度春季大会	1997年 5月21日 ～23日	日本気象学会	筑波大学学生会館 (茨城県つくば市)	気象学会つくば大会97事務 局(筑波大学地球科学系) Tel. 0298-53-4502 Fax. 0298-51-9764
日本農業気象学会 1997年度全国大会 (日本生物環境調節学会と の合同大会)	1997年 6月 6日 ～ 8日	日本農業気象学会 日本生物環境調節学会	京都大学農学部 (京都市)	1997年度農気・生環合同京都 大会事務局 (京都大学農学部) Tel. 075-753-6048 Fax. 075-753-6068
第34回理工学における同位 元素研究発表会	1997年 6月30日 ～ 7月 2日	日本アイソトープ協会	国立教育会館 (東京都千代田区)	理工学における同位元素研 究発表会運営委員会 (日本アイソトープ協会学術 課) Tel. 03-5395-8081 Fax. 03-5395-8053 e-mail: gakujutu@sunl. jria.or.jp